

# 冬季に於ける託兒所保育の問題

石 見 江 水

冬季の保育に就いて考へさせられることは、何より先に暖房設備の問題であります、これも根本的な考へから申しますなら、建物の様式から考へて、かゝらなければならぬのです。保育室や、遊戯室に太陽の光線が好く受け入れられる様に南向きに建てられて居れば、たいそう暖かでありまして、暖温を保つために要する費用も少なくて済むのであります、そうした注意を怠つて、大切な南側を廊下にしたり、他の室に取つたり、玄關に取つたりして、太陽から遠ざかつて居る建方は誠に遺憾であると思はれます。また折角南向きに建てられた建物でも、南側の庭に長い繁つた植物が植えてあるために、日光の入らない建物となることも往々ある様に見受けられますが、これも大に考ふべきもので、南側の植物は落葉樹にするか、さもなければ、太陽の光線の邪魔にならぬ程度に丈を切つて終ふことが必要になります。こうした事は設計の當初から考へて置かなければならぬことであります。現在出來て居るものは仕方がないとして、そうした保育室や遊戯室を如何に暖く活用するかと云ふことで主として管理の問題になります。

—

どんなに寒風にさらしても感冒も引かない様な元氣な子供なら野天に等しい様な室で保育しても差支はないかも知れませんが、都市生活者に多い腺病性體質の幼兒には寒風が非常に恐しいものであります。そして寒風に遇つたために必ず感冒を引きます、そして氣管を悪くしてせきをして居りますが、これが進んで氣管支炎になり肺炎になりして遂には命を取ることあります。冬季に保育事業を視察致しますと、せきをして居る幼兒が七八十名中には四五人は居ります。また首

に繻帯をして居る幼児も二三は見受けられます。こうした感冒の原因は多くは家庭にあることもありませうが、また晝間保育に來て居る時に受けた影響も相當ある様に思はれます。と云ふのは保育室の床板に穴があいたり、ガラス戸が壊れたり窓が不完全であつたり、戸の建て合せがまづくて、そよ風が浸入して來て、そこに直面した幼児がこれに耐へられないで感冒を引くことも往々ある様に思はれます。この點は保育に當つて居るものが好く注意して寒さに向ふまでに修繕して完全な保育室なり、遊戯室なりにしなければならぬと思ひます。

## 二

遊戯室や保育室が完全なものであると假定いたしましたして、それを如何に活用するかもまた問題であります。冬季の嚴寒候に入れば是非とも人工煖温法を考へなければなりません。立派な設備の託兒所になりますと、スチームも裝置されるのでありませうが、多くは石炭用ストーブ、甚だしいのになりますと火鉢で煖を取る様にしなければなりません。それは管理と費用の點から思ふ様に行かぬ點もありますが、託兒所の保育におきましては、幼児が朝早くから來ますから、小使なり保母なりが、幼児よりも先きに早くこの煖き味の充分にある部屋に依つて、早朝から起こされて、寒風にふかれて來た途中の寒さを忘れる煖かさを感じられる様にしなければならぬのですが、經費の關係から、火を入れる時期が遅れて、幼児も保母も共に寒さに歎くと云ふ憐れな所もある様に思はれます。何はともあれ寒い冬季には煖温を保つ様に經營者なり、保母なりが考へなければならぬと思ひます。經濟の點から考へると、保母さんが頭を働かせますなら、早朝火を入れ、室をあたため、日中の暖かい時には、これを弱め、また夕方にはこれを強くすると云ふ方法もあります。時に暖い日中でも、早朝と同じ様に火を入れて不經濟なこともある様に見られる所もあります。こゝは保母也小使等が經營者の心持になつて心を使つて、火を強めたり、弱めたり、不用な時には直に消すと云ふ様に頭を働かせて費用を節約しながら温味のある保育をやる様にしたいものであります。

この様に冬季の保育には室を暖にすると云ふことは必要であります。これと相關聯して、晝食の問題があります。託児所になりますと、辨當のない様な幼児、また非常に粗末な辨當もあるのであります。こうした幼児に對しては出来るなら副食物を加へて相當な辨當に償つてやることも必要であります。それは別問題といたしまして、一般的に辨當は長い間棚に保管されるものでありますから、これが相當冷たくなることと思はれますがこれをどうかして、温めて食はせると云ふことでありまして、その方法は種々ある様であります。甚しいのは冷めたまゝで食べさせられる所もある様であります。これは大いに考へなければならぬことと思ひます。これにも、相當な經費がかかることにはなりますが、その方法として考へられるのは、(1)辨當保管用の戸棚を作つて、これに電熱を入れてあたゝめることであつて、早朝六時頃から十二時頃まで電熱を使用するとすればそれに對する費用が必要になります。それも確な計算はいたしたことがありませんが相當熱量を要しますから多くは使用されません、(2)スチームの通つて居る所でその上に棚の様な設備をしてこれを使用すれば經費もあまり要しませんが、一寸見て體裁は好くありませんがこれを活用することも出來ます。たゞ辨當を包む袋、または風呂敷が破損することを考へて、これを取りかへてかゝらなければなりません。辨當保管用の箱火鉢の如き物を作つて、これにたどん玉を入れてあたゝめて置くことであります。これもその棚の上下を時々入れ替へて温めて置くことでありまして、これを相當工夫すれば、面白い經濟的なものが出來ると思はれます、(4)火鉢の上の金網を利用してそれに辨當を載せて置くことであります。これは經濟的であります。これも七八十名分の辨當を載せるには相當廣い面積が必要になりますし、また、その袋や、風呂敷も破損することが多いから大に考へなければなりません、(5)「ふかし」をする方法、若しも大釜がある所でこれをふかすためせいろを作つて湯氣でふかす様にしたら好いかと思ひますが、それも特にふかすため湯をわかすと不經濟でありますから、晝食用のお茶をわかす際にふかす方法を考へると一舉

兩得が得られませんかと考へられます。こうした辨當を温めるのにこれと云ふ好い方法もありますが、今後尙大いに考へなければならぬ問題であります。

#### 四

冬季に考へなければならぬ今一つの問題は衣服のことでありまして、幼児によりますと母が好く考へて感冒を引かぬ様に相當注意して居るものもありますが、稀には家庭が貧困であるために、衣服も季節はづれた、裕もの時代に單重着をきて居るものもあれば、それが洗濯の手のとどかぬ爲に、あかがついてかたくなる様なこともあり、足袋も手袋もない様な幼児もあります。これは當の幼児には習慣で左程に寒さも感じないこともないかも知れませんが、他から見ると如何にも氣毒にたへない状態であります。これも託兒所の保母や、その他の關係者が協力して相當な衣服にしてやりたいのであります。殊に託兒所の上履になりますと、各幼児がまちまちでありまして、甚だしい幼児は之を持たないために、心なしの小使が、板敷の遊戯室や保育室の掃除がまづくて水溜りを作つてあるのに、素足で歩いてそれに觸れる様な稀な例もあります。こうしたことは、保母の注意の如何で相當防ぐことが出来ると思ひます。こうして冬季の託兒所の保育に於ては家庭の人達の注意すべき所まで立入つて考へて、衣服その他手袋、足袋、上履物等にも恵みの手のとどく様に考へてやらなければなりません。斯様にして外の子供と左程に區別もつかぬ程の衣服、またはもち物にしてやるのが、どの様に彼等の自尊心を高める様に導かれるか知れまません。而しその幼児が託兒所から恵まれた品物であるとか、他人から恵んで貰ふたのだと云ふ様な感じを懷かせることは、前の自尊心よりも更に恐るべき悪い結果をもたらしますから、この點も考へてやらなければなりません。

#### 五

幼児が、足袋や手袋をもたないと云ふことが直接に體に及しますことはヒビ、アカギレと云ふ疾患になつて現れて來ま

す。こうした疾患にかゝると、お湯を使ふにも、しみるから徹底的な使ひ方もいたしませんから、不潔になり、そこにあかがたまります。それで手足にヒビが切れる、あかがたまると云ふことが、託児所の子供にはあり勝であります、これを防ぐためにお湯に入れることも理論としては考へられるのでありますが、實際はなかなか實行の出来ないことであります。それが好くあることでありますが、體質が弱い子供でありますと、お湯に入つて後に寒風に吹かれて、感冒にかゝることもあります、湯ざめをすると云ふことも考へなければなりません。多くの子供をお湯に入れることも相當困難にもなつて來ます。兎に角、託児所の幼児はヒビが切れ勝ちでありますから、これが處置方法を考へてやることも保育上大切なことであります。訛兒所に於ける保育には、春から夏にかけては、濕疹の手當、冬から春にかけては、ヒビ、アカギレの手當、更に充分を云へば、トラホームの手當等は季節の行事であり、日中の行事であると考へられるのであります。

## 六

この様に考へて來ますと、冬季に於ける託児所の保育としては、まづ、暖房、衣服（足袋手袋）辨當、疾患の手當等が主なる問題であります。こうした設備が完成して居れば保育は充分出來るかと思ふのであります、好くある例であります。暖房設備は充分出來て居て、室内は非常に暖かい、それが爲に幼児は汗をかき、そして冷を取るために戸外に出て、寒風に觸れて、感冒を引くこともあります。こゝには保母さんが之を管理する上に充分注意して温度の調節を怠らぬ様にいたしませんと、之を怠つたがために大きな過ちを招くことがあるのであります、幼児が汗をかゝぬ位に涼風を求めるとは非常なる相違を來します。こうした注意は冬季の保育上總ての點に必要であります。それでありまして、冬季に於ける保育事業所の幼児の感冒は、家庭の影響もありませうが、保母の注意の足りない所から來することもあると思ふことを忘れてはならないと思ひます。